



## ステロイド外用剤の 使い方について

みなさんこんにちは。大間病院内科医師の村井正隆です。今年度もよろしくお願ひします。外来診療をしていると「家族がもらってる軟膏を借りて痒いところにつけてる」とか、「以前、足に塗るようにもらった軟膏を顔につけてる」という方とお会いする機会が多いため、今回は軟膏、特にステロイド外用剤の適正使用、副作用に関して書きたいと思ひます。



肌が腫れたり、かゆくなった部分では免疫が過剰に働いています。ステロイド外用剤は、この過剰反応を抑える作用があります。主に、湿疹やかぶれ、火傷、虫刺され、アトピー性皮膚炎に使われます。有名なものにリンデロン、ロコイド、アンテベートといった軟膏があります。みなさんの中にも使ったことがある方がいらっしゃると思ひます。

それぞれ薬としての効果の強さが違い、強ければ強いほど副作用も出現しやすくなります。副作用としては、おでき（毛包炎）の出現や水虫（白癬）の増悪などの皮膚の

細菌感染症が代表的なものとして挙げられます。細菌感染症の場合、ステロイド外用薬の継続で病状の悪化を招くことがありますので注意が必要です。その他、皮膚萎縮・菲薄化、多毛、にきび、毛細血管拡張といったものも挙げられます。

一般に3～4週間以内が連続使用の安全期間とされており、8週間以上は副作用の出現率が高くなるといわれています。もちろんこれはステロイド外用薬の強さによっても異なりますので、一概には言うことができません。2～3週間使用して改善がなければ、ステロイド外用剤の強さの変更やステロイド外用剤以外の薬の使用を検討するなどの治療変更も考慮されますので、漫然と塗り続けることはせずに、外来でご相談いただければ幸いです。

1回の適正使用量ですが、チューブ状の外用薬で、大人の人差し指の先から第一関節までの長さの量（約0.5グラム）を、両手分の広さの患部に用いるといわれています。それ以上の塗布は不必要となりますので、適切な量で必要最低限に留めましょう。

以上がステロイド外用剤の使い方です。使い方を守って適切な治療に繋げましょう。

最後まで読んでいただきありがとうございます。



お客様の課題解決のお手伝いを  
「誠心誠意」対応いたします。



「新たなビジネスモデルの創造」  
「セキュリティなど進化するネットワークへの対応」  
ワンストップソリューションをご提案



FUJITSU パートナー

**扶桑電通株式会社**

■青森営業所

青森市長島二丁目13番1号  
TEL. 017-775-2031(代) FAX. 017-774-4720

■八戸営業所

八戸市三日町2(青銀明治安田生命ビル)  
TEL. 0178-44-1855 FAX. 0178-44-8494

《ホームページアドレス》  
<http://www.fusodentsu.co.jp>